

防災教育の取組について

事業目的

小・中・高校生の防災教育を充実させ、災害時にも活躍できる人材の育成を目指す

防災教育指導案の作成

- ・各地域の過去の災害の教訓
- ・工夫した避難訓練の実施方法
- ・災害を想定した図上演習
- ・他科目との関連項目
- ・非常食への理解 等

啓発活動

- ・デジタルハンドブックの作成
- ・災害・避難カードの作成
- ・出前語らいや防災士の講演

体験学習

- ・災害備蓄物資の活用
(訓練配布や調理体験)
- ・減災学習体験 等

危機管理部と教育委員会が連携した人材育成

学校における防災・減災教育

- デジタルハンドブック等による基本知識の習得
- 防災教育指導案を活用したより実践的な教育（総合学習で実施）
- 災害時に必要な知識の取得や体験活動による技能の取得

<子ども防災力強化事業メニュー>

デジタルハンドブックの作成、「災害・避難カード」の作成

小学生対象

危機管理部

<内容>年齢層毎(小学1～3年、4～6年)に応じたデジタルハンドブックの作成し、防災教育の促進につなげる。

<意義>・防災に関する知識を習得することで、児童が自分自身や自分の家族を守るための判断や行動ができるようにする。
・年齢階層ごとに合わせた教材の作成・配布により、避難所での過ごし方など年齢に応じた役割・行動への理解を深める。

出前語らい事業による啓発

中学生対象

危機管理部

<内容>中学生に対して、出前語らい事業を行うことで、防災意識の向上につなげる。

<意義>・日頃から準備すべき地震災害への減災対策や自助・共助の必要性などについて理解することで、災害時に自主的に行動できる人材を育成する。

防災教育指導案の作成

高校生対象

危機管理部

<内容>学校で活用できる防災学習メニュー(指導案)を作成し、防災教育の促進につなげる。

<意義>・防災学習の指導例や避難訓練の工夫例等を示すことで、防災教育の推進を図る。
・防災非常食を活用した指導例や地域の防災士と連携した指導例など示し、各校に普及させる。
・活用校の実践例を収集し、府独自の防災教育実践事例集の作成につなげる。

非常食の活用

高校生対象

教育

<内容>防災非常食を活用して調理実習等を行う。

<意義>・実際に非常食を食べる体験をすることで、被災時の避難所等での食事・過ごし方の工夫について考えることができる。
⇒「防災非常食レシピ集」の作成等
・使用期限の迫った非常食を教材として活用することで、ローリングストックとフードロス削減に貢献する。

外部機関との連携

高校生対象

教育

<内容>防災士による講演や公園公社の減災学習プラン※を活用し、災害時の対応について、より理解を深める。

<意義>・防災・減災に活躍する防災士の役割を理解することで、自分にできることを考えるきっかけとなり、災害時に自主的に行動できる人材を育成する。
・より専門的な知識を習得することで、防災に携わる仕事への興味や、職業選択を行う上での判断材料につながる。
・校外における災害への対応を学ぶことで、周囲の人の安全に役立つ行動が身につく。

※当該プランについては危機管理部、教育委員会と連携し、公園公社にて内容を検討中